

茨城県議会議員

とこい洋治 県政報告NEWS

4回目の一般質問 300人の傍聴者を迎え、 迫力の論戦!



▲ 6月13日、皆様のお蔭で常井議員は、4回目の一般質問を行いました。一期目の総決算ともなり、地元や県政全般の課題について、迫力ある厳しい質問で対応を求めました。先輩議員や傍聴者からその内容や熱意に対し、たくさんの賛辞をいただき、感謝を申し上げます。

ペット 中央病院へ本県初のPETの導入を求める —心臓手術を可能とする「心臓血管外科」の開設も要求—

常井議員は、死亡原因の約3割を占めるがんを制圧するため、本県のがん診療をリードする県立中央病院へ県内初のPET（ペットと呼ぶ。「陽電子放射断層撮影装置」）の導入を強く求めました。本年4月からPETによる検査は、保険対象となり、2～3万円の本人負担で受けられます。しかし、整備費用が約15億円を要するため、県内には未だ一台もありません。この検査は、極めて早期のがんの発見ができる大変有効な機器ですので、一刻も早く中央病院へ導入すべきであります。現在、県内で1日平均で約19人が、がんで死亡しています。がんに肉親や友人の生命を奪われた、あの悔しさや無念な思いを忘れてはなりません。PETの検査で多くの命を救えることとなります。何となく、導入を実現したいと考えております。

また、常井議員は、中央病院を救命救急センターと同様の機能を持たせるには、心臓手術を行える「心臓血管外科」の開設が是非とも必要と考えています。同病院の医療スタッフの強い意欲もありますので、今後とも粘り強く主張を続けてまいります。

同議員は、医療のまちとして、全米の都市の中で「最も住み良い都市」の一位にランキングされたことのあるピッツバーグの例を挙げて、友部町を中心にした地域を高度医療と福祉に特化した住み良い都市として「日本のピッツバーグ」と呼ばれるようにしたいと夢を語りました。



一緒に創ろう!

とこい洋治一般質問要旨

ふるさと西茨城郡 **友部町 岩間町 岩瀬町** の新時代

平成14年第2回茨城県議会定例会は、6月10日から21日までの12日間の日程で開かれ、条例など25議案を可決しました。常井洋治議員は、一般質問に続き農林水産委員会などの質疑を通じて、熱心に審議を行いました。なお、今回は、補正予算案の議案はありませんでした。

一般質問要旨

常井議員は、今回の一般質問での①地方分権時代の茨城県政の方向について②県立中央病院の高度医療化への取り組みについて③西茨城郡内のプロジェクト事業の推進について④西茨城郡内の道路網の整備について⑤ゆとり教育と完全学校週5日制の実施に伴う課題についての5項目を質問しました。その中から4項目の要旨をお知らせします。

畜産試験場跡地利用の具体化で合併支援を!!

畜産試験場跡地の利活用の具体化について

常井議員 畜産試験場跡地の利活用について、前回の知事答弁で地元地域振興の観点から検討するとのことだったが、未だアウトラインさえ見えてこない。現在、友部町と岩間町では合併に向けた気運が盛り上がっている。跡地の活用を通して、県が積極的に合併を支援していくことが重要である。畜産試験場跡地の利活用の具体化は、

企画部長 県庁関係各課及び地元友部町と連携を密にし、民間活力の導入も含め検討を行っている。友部町では周辺市町村との合併に向けた検討が始められたほか、道路網の整備計画が検討されているなど、利活用にあたって考慮すべき動きがある。地域振興の観点を含め、必要に応じ、地元や有職者等の意見を聞いて、跡地利用の検討を進める。

県立中央病院の高度医療化への取り組みについて

常井議員 県立中央病院では、現在心臓疾患の外科手術ができない。国民の生活レベルの向上により、心血管関係の成人病が増加している現代において、唯一の県立総合病院である中央病院には、本県の医療をリードしていく先端的な役割が求められている。同病院に、心臓血管外科を開設し、名実ともにセンター・オブ・センターとしての機能を持たせ、地域医療の発展と一層の高度医療化を図るべきと考えるが、

保健福祉部長 緊急に外科的治療が必要な心臓疾患の患者は、医師や看護師が付き添い水戸済生会総合病院に転送している。国立水戸病院には救命救急センターが併設され心臓血管外科手術も実施している。今後とも、特色のある機能を持った2つの病院と役割分担をしながら、地域全体で、がん・脳血管疾患・心疾患の3大疾患に対応したい。

常井議員 本年4月から社会保険診療報酬が改定され、

5ミリ程度の極早期のがんの発見や良性・悪性の判断も可能な陽電子放射断層撮影装置（PET）による検査が保険診療の対象となり、本人負担2～3万円でかかれるようになったが、県内の医療機関にはまだ1台も設置されていない。がんの診療レベル向上を図るため、本県初のPETをがん診療をリードする中央病院に早急に導入すべきと考えるが、

保健福祉部長 平成15年度以降のがん対策を検討する「茨城県総合がん対策推進会議」を7月に設置する。県立中央病院へのPETの導入についても、そこで国立がんセンター総長をはじめとする専門家の意見を聞きながら、放射線を利用した診断・治療などの医療体制全体を考える中で早急に検討してまいりたい。

総合流通センターの早期着工について

常井議員 総合流通センターの事業年度の目安となる債務負担行為が、平成12年度から一気に25年度までと、13年先まで延長された。極めて残念な思いで憤りさえ覚える。着工時期を含めて、今後どのように整備していくのか。さらに、造成後の販売戦略をどのように考えているのか。

商工労働部長 現在、県内外の運輸業や倉庫業の企業を個別に訪問している。今後は対象業種を広げ、小売業や製造業、商社等にも意向調査や戸別訪問を行う。また、適正な分譲価格の設定や割賦販売方式の導入を検討するとともに、多様な用地需要に対応するため、法定施設の範囲拡大を国とも協議する。このような取り組みを通じ、企業の具体的な立地需要を掘り起こし、分譲見通しを立てたうえで、一日も早い着工に向けて努力する。

西茨城郡の道路網の整備について

(1)友部町環状道路の整備

常井議員 鴻巣跨線橋と北関東自動車道友部ICを結ぶ

都市計画道路、宿大沢線と上町大沢線の進捗状況及び完成見込みを伺いたい。

土木部長(要約) 宿大沢線は、総延長1,200mのうち、鴻巣跨線橋からカスミ前通りの町道までの650mを優先区間として、14年度から一部工事に着手(路盤工事)する。用地交渉2件が未成立。

上町大沢線は、友部ICから穴戸小付近まで約900mの用地取得中で、早期着手に向けて推進する。現在約50%取得済。



▶ 友部町の発展のためには、鴻巣跨線橋から先の大沢・友部IC方面への環状道路の整備が、急務である。

(2) 県道友部内原線(中央病院前通り)の整備

常井議員 友部町と内原町の境界付近(内原ゴルフ場付近)から岩間街道方向は幅員が狭く屈曲している。整備が進行しない理由と今後の整備見通しを伺いたい。

土木部長 約1.3kmについて、公団混乱地区のため、事業を休止していた。昨年度、地積調査が完了したので、事業再開のめどが立った。今年度は路線測量に着手する。



◀ 県立中央病院前を通る県道友部内原線は、町境付近が狭く曲がっており、長い間の懸案だった。やっと改良の方向性が出された。

(3) 国道355号石岡岩間バイパスの整備

常井議員 岩間町市野谷地区は、交通量が増大しており、一般家庭からの車の出入りもままならない。歩道も全くなく、子供たちは大型車の風圧に吹き飛ばされる思いをしながら通学している。政治の貧困を感じる。バイパスの進捗見通しを伺いたい。

土木部長(要約) 国道355号(八郷町成井)から県道上吉影岩間線(イトキン工場付近)まで、約3.2kmが未整備であるが、用地取得済区間は順次工事を行っている。

JR常磐線の跨線橋や巴川の架橋を含む約1.7km区間は、境界や相続の問題で用地取得ができず、工事に着手できない状況となっている。用地取得を精力的に進め、早期開通に努める。



▶ 岩間町市野谷の国道355号は、交通量が増え、沿線の生活や通学の子どもの安全がおよびかされている。一刻も早く石岡岩間バイパスの完成が強く望まれている。

(4) 県道富谷稲田線の整備

常井議員 岩瀬町山口地区から笠間市稲田地区にかけては、幅員が狭く、急勾配で危険な状況である。早期の改良に向けて、整備見通しを伺いたい。

土木部長(要約) 稲田地区については、一部拡幅工事を進めている。岩瀬町山口地区についても、今年度は地元説明会を開催し、路線測量に着手する予定である。今後は緊急性の高い区間から順次事業を展開していく。



◀ 岩瀬町山口から笠間市稲田にかけての県道富谷稲田線は、危険箇所が多い。生活道路として重要であり、早期改良が期待されている。

ゆとり教育と完全学校週5日制の実施に伴う課題について

常井議員 今回のゆとり教育は、小・中学生の授業内容の3割削減を基本としている。このままでは、勉強する子供とそうでない子供の2極化が益々進み、将来の日本社会の階層化にまでつながる恐れがあると危惧している。何よりも「学校は勉強するところである」という確固たる柱を立てて、「勉強することは良いことである」と当たり前のことを堂々とアピールしていくことが重要である。安心して子どもを公立学校に通わせることができるよう、独自の施策で学力水準の向上策を考えていくべきだ。学力低下問題に対し、どのように考え、対処するのか。学校現場と親御さん、子どもたちにどのように説明するのか。

教育委員会委員長 変化の激しい社会を生きる子どもたちの学力を向上させるため、児童生徒一人ひとりに応じたきめの細かな指導、教師の指導力の向上、子どもたちの学ぶ意欲の喚起という3つの視点を基に教育を進めている。様々な機会をとらえ、各学校の取り組みを子どもや家庭・地域にこれまで以上に積極的に説明していくよう指導助言し、家庭、地域社会の協力を得ながら児童生徒の一層の学力向上に努める。

常井議員 先般、ある県立高校において土曜日に予備校の講師による補習授業を行おうとしたが、校舎使用が認められなかった。受験を目指す高校生は、土曜日の過ごし方に大きな不安を抱いていると推察する。どういう理由でそのように判断をしたのか。そして、今後はどういうように対処するのか。

教育委員会委員長 学校で行われる教育活動は教員が主体的に生徒とかかわりを持つものでなければならない。この場合は、特定の予備校にすべてを依頼し、当該校の教員がかかわらなかったのが不適当と判断した。しかし、土曜日の補習は生徒が主体的に参加する体験活動の選択肢の一つであり、今後は、教員がかかわりを持ちながら、大学の先生や地域の有識者など学校以外の教育力の活用が図れるよう学校に周知する。

農林水産委員会 (H14.6.17)

廃用牛のと畜で酪農家の負担軽減を求める!

❶ BSE(狂牛病)問題により、と畜できないため、乳用種廃用牛(乳を搾らなくなった乳牛)が、4月現在で県内に約2,500頭も酪農家に滞留したままになっている。エサ代(約1万円/月・頭)など農家にとって経済的負担が大きい。と畜頭数の拡大を図るべきだ。廃用牛のと畜完了は、いつになるのか。

❷ 県産木材の利用は、行政が率先して行うべきだ。学校の机や椅子、そして校舎も木造で県産材を使っていくべきだ。コンクリート校舎は30年程度で建て替えるが、3倍の費用をかけても100年もつ木造校舎も検討すべきだ。同じ学舎(まなびや)で親子何代も学べるようにすれば、愛郷心にもつながるはずだ。

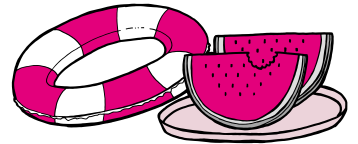
❸ 21世紀の社会的基盤は「農」である。農林水産部職員1,359人は、「農」と環境問題、家庭や地域社会の絆のあり方、暮らしや健康などとの関連をもっと議論すべきだ。そして、徹底した現場主義を持ち、農業者の目線で考えるべきだ。

常井議員は、上記の要旨で質疑を行いました。

前記❶の廃用牛のと畜については、答弁で半年以上かかるとされました。その後、常井議員の質問を受けて、農林水産部で検討を重ねた結果、と畜頭数が大幅に拡大されることになりました。



▲農林水産委員会で、ひたちなか市磯崎町の水産試験場栽培技術センターを調査した。今売り出し中の「一口あわび」のエサとなるアラメの説明を受ける常井議員(左から2人目)。(平成14年5月)



▲県立友部病院に児童・思春期の精神医療の専門病棟「つくし」が開設され、除幕式が行われた。初めての質問で取り上げて以来、職員の皆さんと熱心に取り組んできた常井議員は、感慨無量であった。常井議員の右側は、山本県保健福祉部長、左側は、井川家族会会長さん。(平成14年6月)



▲県道石岡岡北線と北関東自動車道が立体交差する地点(友部町柏井地区)は、事故が多発している。側道と県道の構造について、水戸土木事務所と現地調査をした。町では、早速カーブミラーを設置した。常井議員は、園部柏井区長さんと笠間署へ外向き、ゆかいふれあいセンター入口への信号機の設置を要望した。(平成14年4月)



▲国道355号線の岩間町市野谷地区(コメリ近辺)で、道路際に段差があり、自転車や歩行者が危険との連絡を受け、早速現地調査をした。この路線の全面的な路面整備と併せて、水戸土木事務所へ補修工事を依頼し、直ちに補修が実行された。(平成14年6月)



▲5月5日に友部町の「仁古田つた会」(大貫茂治会長さん)に参加し、大勢の参加者の皆さんと手づくりの鯉料理をごちそうになりながら歓談した。(右から2人目)左隣は、地元の大貫友部町議会議長さん。(平成14年5月)



▲中央聴覚障害者協会の総会には、常井議員は、毎年出席して会員の皆さんと懇談している。左隣は、手話通訳をする岩間町の藤井忠太郎さん。(平成14年4月)

燃える郷土愛。全力投球!!—皆さんの笑顔に会いたい—

常日頃は、私に対し熱いご支援を賜り、お礼申し上げます。

お蔭様で、私も日々元気で議会活動に励んでおります。皆様から13,630票という尊い票を頂いてトップ当選してから早くも3年半を経過しました。私は、その一票一票に応えるべく、県議会において、皆様の声を代弁して多くを県政に物申してきました。

この度、3年分の常任委員会での発言をまとめた小冊子「とこい洋治の主張」を発行しました。いま、それを持参のうえ、一軒ずつ皆様のご家庭を訪問して、報告したいと考えています。これが私の夢の一つでありました。私は21世紀の県議像を実現するためには、常に皆様の素敵な「笑顔」に接しながら、同じ目線を確認し、一緒に考え、行動することが最も重要なことだと思っております。限られた時間の中ですが、できる限り多くの皆様のところへお伺いしたいと考えております。

さて、今回、一期中に最多となる4回目の質問の機会を頂きました。皆様に改めてお礼申し上げます。私の質問について、多くの議員や傍聴者から評価を頂きましたが、一方で答弁のあり方に、問題提起がされました。執行部は議員の真剣な質問に対し、もっと真摯な姿勢で本質を捉えて、答えるべきだということです。21世紀の地方自治における知事と県議会のあり方、議会制民主主義が問われる問題であると考えております。知事はじめ執行部は、その声にきちんと対応すべきと考えます。

私、常井洋治は、今後も皆様の御用聞きに徹してまいりますと考えております。引き続きご支援をお願い申し上げます。



茨城県議会議員 常井洋治

常井洋治議員ホームページ「県政を語ろう」 アドレス●<http://www.net-ibaraki.ne.jp/tokoiy/>

※一般質問、委員会質疑の議事録は、このホームページからリンクして見ることができます。